

平成 24 年度糸島市外部評価 評価対象事業選定会議

— 会議録（要旨） —

■日時：平成 24 年 9 月 16 日（日）

9：00～12：30

■場所：糸島市役所 本庁舎 新館 4 階 402 会議室

○会議録の公開について

- ・会議録は、議事要旨を公開しています。なお、忌憚のない意見交換を行うため、評価員氏名は、アルファベット表記をしています。

【会議次第】

- 1 あいさつ
- 2 協議
 - (1) 糸島市外部評価の概要について
 - (2) 選定候補事業について
 - (3) 評価対象事業の選定
- 3 今後のスケジュールについて
- 4 その他

【議事概要】

議事 1 糸島市外部評価の概要について

○事務局より、外部評価の概要及び長期総合計画の概要について説明した後、質疑に入る。

■評価員 A

- ・外部評価は、市民も学べるよう公開してほしい。
- ・職員研修の場として、できるだけ多くの若い職員に関わっていただきたい。
- ・長期総合計画の基本構想に人口増加を掲げられているが、現状では人口が減少している。基本計画を立案したときと現在の整合性を説明してほしい。

■事務局

- ・外部評価は公開する。市民には、広報やホームページで周知する。また、参加者にはアンケートを取り、今後の参考にしたい。
- ・職員の研修の場としても位置づけている。職員が外部評価で刺激を受け、成果を追求した事業実施を徹底するきっかけとなるような“気づき”の場にしたい。なお、事業の説明は、課長・係長・担当者が主となり行う。それ以外の職員も傍聴できるよう、内部で調整したい。
- ・人口については、当初の計画では、平成 27 年度までは増加することを見込んでいたが、

平成 23 年度には減少に転じた。しかし、基本構想を見直すのではなく、人口 10 万 2 千人を目指して取り組んでいきたい。

■**評価員 B**

- ・ 外部評価員の位置づけについてお尋ねする。一般的な審議会のように、市長からの諮問を受けて答申する形ではないものの、外部評価員の意見を基に、内部で見直し案を検討し、最終判断を市長が行うものと捉えている。

■**評価員 A**

- ・ 暫定的な位置づけでよいと思う。行政内部では気づきにくい部分に、外部の視点を取り入れるものであり、何かを決定する機関ではないことをしっかり押さえておけばよい。
- ・ 対象事業選定会議や外部評価当日の議事録はどのような形式で公開するのか。

■**評価員 B**

- ・ 評価員の氏名まで公開すると、評価員の立場やイデオロギーが反映されるリスクがある。
- ・ ここは公開しないと線を引くやり方と、民主的に決めた部分は公開するやり方とある。

■**評価員 A**

- ・ 評価員を匿名化して、ある程度のもものは公開してもらわないと、市民や職員の学習効果がないと思う。また、対象事業選定における多数決の結果も公表してほしい。

■**事務局**

- ・ 委員の位置づけについては、条例に基づいた附属機関ではない。審議会に準じた形で、自由に意見をいただく方法をとらせていただいた。来年以降も続けていく場合は、審議会とすることも検討したい。
- ・ 意見の取り扱いについては、外部評価の結果が最終結論とはならないものの、最大限尊重したい。評価結果と異なる判断を行政内部で行った場合は、説明責任を果たしたい。
- ・ 会議録の取り扱いについては、氏名を匿名化し、できる限り市民の皆さんにお伝えしたいと思っている。選定会議の多数決の結果についても、評価員の皆さんが合意されれば、公開したい。

■**評価員 B**

- ・ 事前に内容をチェックできればいい。

■**事務局**

- ・ 事前にチェックいただき、皆さんの了解をいただいたところで公開する。

■**評価員 C**

- ・ 事業の選定数は、必ず 14 事業か。
- ・ 選定シートの選定理由欄は、自分が選定したもののみ記入するのか。
- ・ 同じような事業があって、一本化してはどうかと思うものがあった。

■**評価員 B**

- ・ 事前に選定シートに記入したが、選定理由欄は、自分が選んだものしか記入していない。選定数が同数となったものを選抜する中で、改めて議論すればよいのではないか。

■**評価員 A**

- ・ 事業選定シートの記入は、評価すべきと思う事業にのみ「○」をつけるより、1 点から

3点までの3段階で全事業に記入するほうが、順位の差がつきやすい。

- ・似たような事業を同時に評価することは、事業の重複に気づき、部署を超えて事業を行うことを議論するためにも意味がある。

■事務局

- ・評価対象事業数は、2日間の日程や、本日欠席の評価員さんには既に14事業を選定していただいていることから、14とさせていただきます。
- ・複数の事業を同時に評価することについては、次年度以降の検討課題とさせていただきます。
- ・選定シートの記入方法については、評価員の記入しやすさを考慮し、14事業に「○」をつける方法で提案したが、すべての事業に1点から3点の3段階で記入する方法に変更させていただく。本日欠席で事前にシートを提出された委員さんについては、「○」を3点、「未記入」を1点とさせていただきます。

■評価員A

- ・長期総合計画では、将来目標人口を高く設定してある。他の自治体で、行政の施策により人口が増加した事例を知らない。むしろ人口減少によるダメージを少なくするアプローチが必要だ。長期総合計画の見直しをする柔軟さと見直しのサイクルを早められる態勢でなければならないと思う。
- ・統計白書のデータについて、糸島市が個性を打ち出したい場合に、すべての分野で県や国の平均値を目標にすると個性がない自治体になる。個性を輝かせるには、本当に必要な指標に絞り込んで必要な対策を打つよう、職員の意識改革が必要。また、それは住民の納得がないとできない。市民が幸せになれる指標はなにかということではないか。

■事務局

- ・統計白書は、糸島市の現状、立ち位置を明確にするため、平成23年度に初めて作成した。結果を見ると、特に人口増加率など厳しい状況がよくわかった。来年は、日本一を誇る銅鏡、直売所、水素タウン、鯛の水揚げ高といったものを追加し、糸島らしさを打ち出していきたい。

■評価員C

- ・糸島市として積極的に九州大学を利用し、糸島を発展させることがたいせつだと思う。また、駅から離れた大学では、まちが発展しない。自動車で福岡市から通えばいいという感覚になってしまうのではないか。若い人が糸島に残って活躍してくれることがたいせつだと思う。

■事務局

- ・九州大学に対しては、これまでも連携研究助成を実施してきたが、そこから1歩進め、今後は課題解決型の委託事業を行うこととしている。

■評価員B

- ・このような外部評価の場では、評価の切り口を合わせて行うことが少ない。しかし、評価員がそれぞればらばらの切り口で評価すると、指摘を受けた行政側も困るし、傍聴している市民にも分かりにくい。

- ・外部評価での議論は、職員や市民の意識を変えるプロセスだと考える。単純に事業を評価する場ではなく、改善の場、気づきの場であると思う。

議事 2 選定候補事業について

○事務局より、選定候補事業の概要について説明の後、質疑に入る。

■評価員 A

- ・共通事項として、補助金の一般的な交付ルールを説明してほしい。補助金の目的意識が希薄なものがある。短期間で自立してもらうためのものは、補助金の期限を切るべきである。ただただ続けているものは、本来市が行うべき事業ではないかという見直しが必要。もしくは協働事業の予算として組み替える必要がある。

■評価員 B

- ・補助金と助成金と交付金の区分が、自治体によっては、はっきりしていないことがある。

■事務局

- ・補助金は、団体補助金、制度的補助金、政策的補助金に区分している。なお、補助金は、市民団体が事業主体となり、責任をもって事業を実施するという位置づけで支出している。期限を切るべきものもあるが、個別に見ると必要性があり、継続して補助金を支出しているものがある。

■評価員 A

- ・行政自身が庁内で処理できず、補助金という形で下請け的にやっているケースもある。

■評価員 B

- ・時間がたって、何のための補助金かわからなくなっているものもある。

■評価員 A

- ・補助金については、どの区分かと、年限の設定があるのかないのか、年限を超えた場合は再審査を経ているのかどうかを説明していただくと判断しやすい。
- ・担当課は選定していないのに、事務局であえて選定している事業があるのはなぜか。

■評価員 D

- ・選定欄の「○」は担当課の選定、「△」は事務局の選定とのことだが、「○」が上で「△」が下のようにつけられる。この表記は不要だったのではないか。

■事務局

- ・できるだけ多くの課に事業の評価を受けてもらいたかったため、また事業の実施に当たり、直営・民間委託・指定管理者制度の導入・協働による実施など選択肢があるものを選定している。

■評価員 A

- ・1課1事業という原則がありながら、原課が事業を選出しているのに事務局からも別の事業を選出したのはなぜか。事務局が選出した事業のほうが、優先度が高いということか。

■事務局

- ・優劣はつけていない。議論の余地があると思って選出している。また、ある程度の候補事業数を確保したかった。ほかにもこういう事業があるというのを示したかった。

■評価員 A

- ・担当課が見落としている視点を補完するということか。内部で評価が分かれることがあってもよいと思う。例えば市民まつり事業だが、長期的にはどうしたいのか。将来的には協賛金や人口が減ることが予測されるが、その中でも行政が支援し維持するのか、それとも地域住民が困難を克服し、続いていく祭りに育てたいのか。

■事務局

- ・後者で考えている。ただし、協賛金や会費だけでは運営が困難であり、補助金は必要であると思っている。この祭りは市にとって必要である。補助金の減額は検討の余地がある。

■評価員 A

- ・この事業は、担当課ではなく経営企画課が選出したものだが、選出した視点は何か。

■事務局

- ・市民が主体となった実行委員会形式で実施しているものの、担当課の職員の負担が大きいく、人件費も大きい。運営方法を見直す余地があると考え、経営企画課で選出した。

■評価員 A

- ・コストを下げたいのか。職員が中核を担い、補助金をやめるということもできる。現金を節約したいのか、職員の関わりを減らしたいのか明確でないと、そこが分岐点になる。

■事務局

- ・職員の関わりを軽減したいという思いで選出した。

■評価員 E

- ・2番の市民活動障害補償保険の論点は何か。

■事務局

- ・掛け金のほうが少ない状況は市にとってはよいのだが、保険会社から掛け金を上げてもらえないかという打診があっている。掛け金を上げるべきなのか、単価や支払い条件を見直し、総支給額を抑えるものかという点を検討したいという視点で原課が選定した。

■評価員 A

- ・事故発生率についての分析を行っているのか。

■事務局

- ・今日は、詳細な資料は準備できていない。なお、昨年度、一昨年度の2年続けて補償金の額が掛け金を上回っている。

■評価員 D

- ・去年は、補償額が300万円ほどの事故が起こっている。それと、行政区の活動が増えていること、高齢化によりけがをしやすくなっていることが要因だと考える。

■評価員 A

- ・担当課は管財契約課だが、実際は、地域活動などにおけるけがに対する補償であるため、

管財契約課にその説明を負わせるのは無理があるのではないか。

■**評価員 F**

- ・この事業があるからボランティアを募集できる。事業を縮小してほしくないと意見を述べるために選定した。

■**評価員 A**

- ・担当課に説明責任をすべて負わせるべきかどうかについては検討の余地がある。

■**評価員 A**

- ・候補事業に選定されていない事業には、成果指標や見直しサイクルがあるのか。

■**事務局**

- ・実施計画事業については指標をもっているが、その他の事務事業の評価については原課に委ねている。外部評価を経験することで、職員が事業成果をアウトカムの指標で捉えるようにしたい。

■**評価員 A**

- ・担当課として、実施計画事業にある成果指標を見直したいというものはないのか。

■**事務局**

- ・一部ではあるが実施計画事業も選定候補事業に選出している。

■**評価員 A**

- ・それは成果指標の妥当性も合わせて検証するためか。

■**事務局**

- ・その通りである。

■**評価員 A**

- ・選定シートの理由欄だが、時間の制約もあるため、点数だけ先に記入して集計し、議論の必要があるところだけ、ここで議論すればよいと思う。

議事 3	評価対象事業の選定について
-------------	----------------------

○事務局で各評価員が記入した選定シートを集計し、議論に入る。

■**事務局**

- ・選定シートを集計した結果、17 点がボーダーラインとなり、その中に 20 事業が入った。このうち、1 課 1 事業の原則に基づき、1 つの課で複数の事業が該当しているものは、得点が低いほうの事業を削除する。その結果、別紙のとおり、ちょうど 14 事業が選定された。

■**評価員 A**

- ・今日の選定会議の議事録と採点表は、公表をお願いします。

■**評価員 C**

- ・来年もこの形式でされるのか。1 課の中で、ちょっとの差で選ばれなかった事業があるので、来年は 16 事業くらい選んではどうか。

また、類似の事業は同時に評価する形をとってはどうか。

■**評価員 A**

- ・当日の説明の要領は。調書の説明だけか。

■**事務局**

- ・事業概要説明書とそれを補足説明するための資料を添付する。

■**評価員 A**

- ・事業の正当性を説明するために延々と説明に終始されることがあるので、時間制限する厳しさをとっていただきたい。また、総合計画との関係で、どのようなビジョンをもってやっているのか、どのような成果指標をもっているかという説明は必ずしてほしい。

■**事務局**

- ・評価事業数を増やすことについては、次年度検討したい。
- ・総合計画のどの政策・施策に基づく事業であるのかは、冒頭の説明の中で行う。
- ・時間配分と説明のポイントについては、担当課に再度周知をさせていただく。時間配分についてはタイムキーパーを設置する。

今後のスケジュールについて

○事務局より、今後のスケジュール等について説明の後、質疑に入る。

■**評価員 A**

- ・傍聴席の配置は、評価員を取り囲むようにした方が、参画意識が高まる。次年度以降ご検討願いたい。また、パワーポイントを使いたい担当課もあるのではないか。準備しておいてはどうか。

■**事務局**

- ・傍聴席の配置は、検討する。パワーポイントは準備しておく。
- 以上で、本日の選定会議を終了する。